

耳鼻科手術における経口単回抗菌薬投与による術後感染予防の検討

塩盛輝夫¹⁾ 三箇敏昭¹⁾ 花栗誠¹⁾
竹内頌子¹⁾ 松本理佐²⁾ 鈴木秀明²⁾

1) 九州労災病院耳鼻咽喉科

2) 産業医科大学病院耳鼻咽喉科

【はじめに】近年本邦の耳鼻咽喉科領域の手術において術後感染予防に関する抗菌薬の使用に関して多くの報告があるが、十分なエビデンスはなく統一されてはいない状況である。CDCガイドラインでは清潔・準清潔手術ではペニシリン系または第1世代のセフェム系抗菌薬が推奨されているが、本邦では特に準清潔手術において経口ニューキノロン系抗菌薬使用の検討がしばしば報告されている。患者および医療従事者の負担軽減、DPCによる医療費削減、耐性菌の制御のため、安全で簡便かつ有用な抗菌薬の適正使用が望まれる。

【目的】耳鼻咽喉科領域の準清潔手術において経口単回抗菌薬投与により術後感染予防が可能か否かについて検討する。

【方法】内視鏡下鼻副鼻腔手術および口蓋扁桃摘出術症例において2009年4月6日に発売されたジスロマック®SRを術前就寝前に内服し、術後感染率、副作用について従来行っていた術後点滴群と比較検討した。

【結果および考察】現段階では20例程度の症例ではあるが術後感染および副作用の出現はない。服薬コンプライアンスは確実であり、解熱鎮痛薬の使用規制もないため、術後感染率が増加しない場合は準清潔手術例においては有用なものと考えられる。